

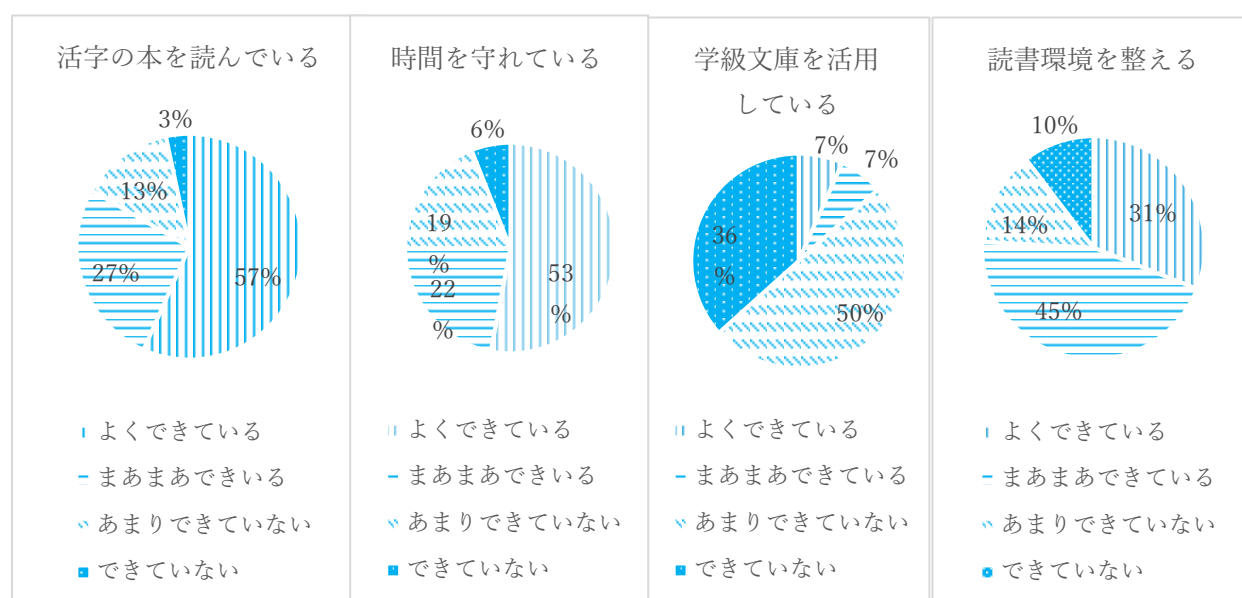
17	刈谷	刈谷市立朝日中学校	ヒラサワ マイ 名前 平 澤 麻 衣
分科会番号	19	分科会名	読書・学校図書館

研究題目

自ら課題を見つけ、読書環境を改善し、読書に親しむことができる生徒の育成
—生徒が主体的に取り組む委員会活動の実践を通して—

1 主題設定の理由

本校では毎朝 15 分間の読書タイムを設けており、生徒が読書に親しむことができるように努めている。本校の読書タイムのルールとして、①8:15 に読書を開始する ②活字の本を読む ③机の上に本以外のものを置かない という 3 つのルールを定めている。最近の読書タイムの様子を見てみると、多くの生徒が、自分の家から持ってきた本や学校で借りた本などを読んでおり、静かに読書に集中する空間ができている。しかし、一部では本を開いているだけで読んでいない生徒や、読書と関係のないことをしている生徒もいる。また、写真やイラストが多いものや参考書などを見ている生徒もおり、活字の長い文章を読むことに慣れておらず、読書の幅も狭まっている印象を受ける。そこで、生徒に以下のような項目で、読書タイムに関する意識についてアンケート調査を行った（資料 1）。



資料 1 読書タイムの意識調査の結果（R7，5月実施）

アンケートの結果から、読書タイムのルールになっている「活字の本を読んでいる」や「時間を守れている」「読書環境を整える」という項目については、4分の3以上ができていると答えたが、一部の生徒は読書タイムに対しての意識が低く、時間を守れていなかったり、活字の本ではないものを読んでいたことがわかった。また、各クラスに学級文庫として20冊程度の本を置いているが、家から本を持って来ず、図書館でも借りていない生徒が、その場しのぎで手に取っているだけというのが現状で、学級文庫の活用に結び付いていないことがわかった。このように、読書タイムが形骸化し、本に親しむことができていない生徒がいる現状の中、生徒自身で読書タイムの課題を見つけ、委員会活動を通して読書タイムの充実化を図り、読書に親しむ生徒を増やしていきたいと考えた。また、図書館の利用状況に目を向けると、一日に10人程度の来館者の日が続いており、図書館にある多くの本が活用されていないことが分かった。

このことから、図書館が読書センターとしての役割を十分に発揮し、もっと本に関心をもつ生徒が増えてほしいと願い、本主題を「自ら課題を見つけ、読書環境を改善し、読書に親しむことができる生徒の育成」と設定した。

2 研究の構想

(1) 目指す生徒像

読書タイムや図書館運営について自ら課題を見つけ、読書環境を改善し、読書に親しむことができる生徒

(2) 研究の仮説

- 仮説① 読書活動の現状や生徒の実態を理解すれば、自ら課題を見いだすことができるだろう。
仮説② 委員会活動を行う際、教室の読書環境や図書館の環境を改善していけば、本に興味をもち、落ち着いて読書しようとする生徒が増えるだろう。

(3) 研究の手立て

手立て① 新・MDS（新まごころ・読書・スタイル）の制定と周知

読書タイムの実態についてのアンケート結果を基に、委員会で今後の課題と改善方法について話し合うことにした。そして、話し合ったことを基に、もともとあった「MDS（まごころ読書スタイル）」という読書のルールを、現状に合ったものに改訂し、周知する活動を行うことで、読書タイムの過ごし方に対する意識を高められると考えた。

手立て② 学級文庫の充実（セレクト本の学級文庫）

委員会で読書タイムでもっと読書に集中するためにはどうしたらよいか話し合った際、「学級文庫にみんなが興味をもちそうなおもしろい本を用意すれば、本を読むことが嫌いな人でも夢中になって読書できるのではないか」という意見が出た。そこから、月替わりで図書委員が学級文庫をセレクトする「セレクト本の学級文庫」を作りたいという意見につながった。どのようにこの企画を行うかについて、委員会で話し合い、全校生徒に周知した後、実施することにした。

手立て③ 図書委員のおすすめ本のポップ制作

図書館の本を借りに来る生徒数を増やすために、セレクト本の中からおすすめの本を1冊選び、ポップを作成してはどうかという意見が出たので、実施していくことにした。

手立て④ 図書室の環境整備

図書館に来ると、「たくさん本があって、どの本にしようか迷う」と言っていて、時々教師におすすめの本はないか聞いてくる生徒がいる。そこで、セレクト本だけでなく、図書館にある本の中からも、図書委員おすすめの本についてポップを作成することにした。また、生徒が読みたい本を入荷できるように、リクエストシートを用意し、いつでも自分の読みたい本をリクエストできる環境を整えることにした。生徒のニーズに応えた本を配架することで、読書に対する関心も高めることができるのではないかと考えた。

3 実践の内容

(1) 新・MDS（新まごころ・読書・スタイル）の制定と周知

委員会活動時に読書タイムの実態調査の結果をふまえて、現状と改善点について話し合い、以下のような改善点をまとめた。

- ① 8：15 読書開始の時刻を全員が守れるようにしたい。
- ② たまに卒業文集や雑誌など、禁止されている本を読んでいたりと、宿題をやったりしている生徒もいる。文集や雑誌を読んではいけないことを知らない生徒もたまにいます。しっかりとルールを周知したい。
- ③ 机の上に余分な物が出ている生徒もいるので、机の上は本だけにして読書に集中できる環境にした方がよい。

この改善点をどのように周知するか話し合ったところ、何年か前の図書委員が作った「M・D・S（まごころ・読書・スタイル）」という読書タイムのルールが書いてあるポスターがあるが、現状に合っていない項目もあるので、「新M・D・S（まごころ・読書・スタイル）」として、新しいポスターを作って周知したいという意見が出た（資料2）。

そこで、各クラスの図書委員が朝読書のルールを明記したポスターを作り、朝の会でポスターを見せながら新M・D・Sについて周知できるよう呼びかけを行った。（資料3）。ポスターは、教室の前面の目に付きやすい場所に掲示し、ルールを守れるように定期的に呼びかけをした。ポスターを作り、掲示したのがR7年6月だったが、その後R8年2月に再び読書タイムについてのアンケートを実施したところ読書タイムの時間を守る生徒が増え、本以外のものを机に出したり、よそ事をしたりする生徒が減少したことがわかつ

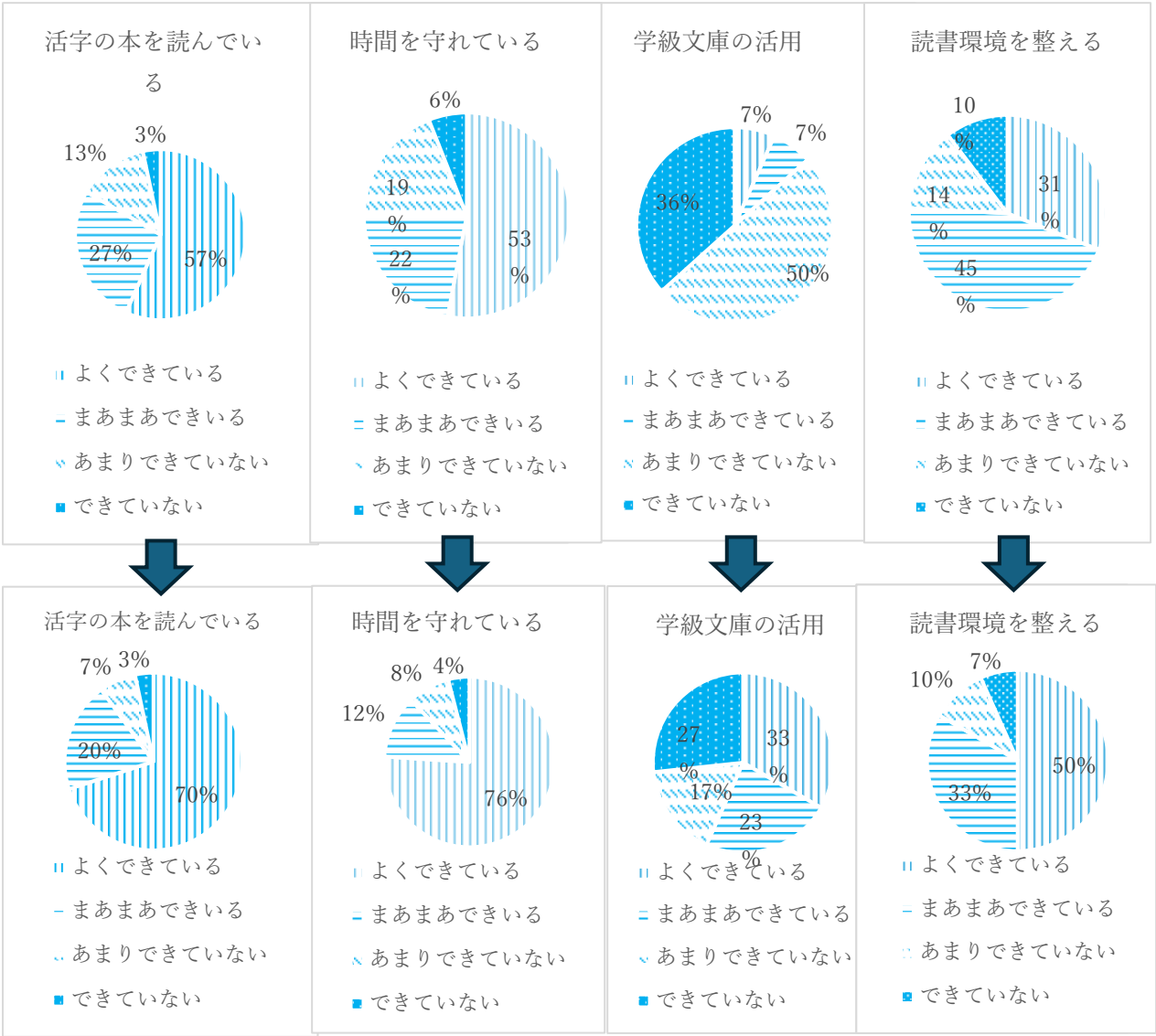


資料2 委員会での話し合いの様子



資料3 生徒が作成したポスター

た（資料4）。ポスターを生徒の目に付きやすいところに貼り、ルールを粘り強く呼びかけたことで、読書タイムへの意識が高まり、静かに時間いっぱい読書をするのがあたりまえという環境にすることができたと考える。



資料4 新 M・D・S の周知活動後のアンケート結果

（2）学級文庫の充実（セレクト本の学級文庫）

学級文庫を充実させるために、生徒の興味に沿った本を学級文庫に置きたいという意見があった。このことを受けて、図書委員が図書館にある本から 10 冊選び、月替わりで本を入れ替えていく「セレクト本の学級文庫」を作ることにした。図書館にはさまざまなジャンルの本があることを知ってもらうために、9 類の文学だけでなく 0 類から 8 類の本からもバランスよく選ぶことにした（資料5）。

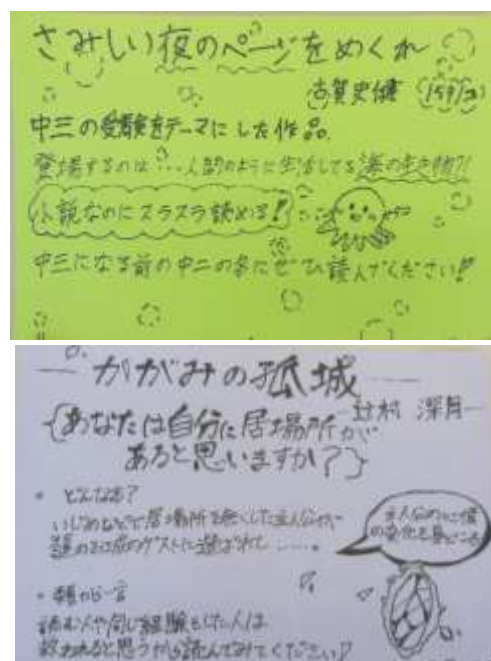


資料5 図書委員のセレクト本

これまでは、学級文庫の本もあまり活用されている様子もなく、生徒のアンケートからも活用できている（よくできている、まあまあできている）と答えた生徒は全体の14%だったが、セレクト本設置以降は、56%にまで上昇した（資料4）。図書委員が読む人と同じ目線でセレクトしたことで、学級文庫に関心をもつ生徒が増えたと考えられる。また、月替わりで本を入れ替えたことで、新鮮な気持ちで学級文庫に関心をもつことができたと考えられる。

（3）図書委員のおすすめ本のポップ制作

セレクト本の学級文庫を置くことで、本に興味をもち、学級文庫の本が活用されるようになった。そこから図書館にある本にも興味をもってもらい、たくさんの生徒が利用する図書館にしたいという思いを話し合いの中でもつようになった。図書委員おすすめの本のポップを作成してはどうかという意見が出たので実施した（資料6）。さらに、読書タイムの前にポップを見せながら図書委員おすすめの本を紹介する時間を設け、各クラスで本の見どころを紹介した。本を読むことに抵抗があった生徒も、このポップを見て「おもしろそう」と言って読み始めることがあった。ある時は「朝読書の時間に読み切れないままセレクト本が交換になってしまったので、続きが気になるから借りに来ました」という生徒が図書室へ訪れることもあった。図書館に来館した人数と借りられた本の冊数を前年度と比較すると、セレクト本やポップ制作をした2025年度の方が多かったことがわかる（資料7）。



資料6 図書委員が制作したポップ

2024 年度 年間利用統計			2025 年度 年間利用統計		
	合計	開館日数平均		合計	開館日数平均
冊数	3,108	12.5	➡	3,961	16.2
人数	2,942	11.9		3,658	14.9

資料7 図書館の貸し出し冊数と来館者数の変化

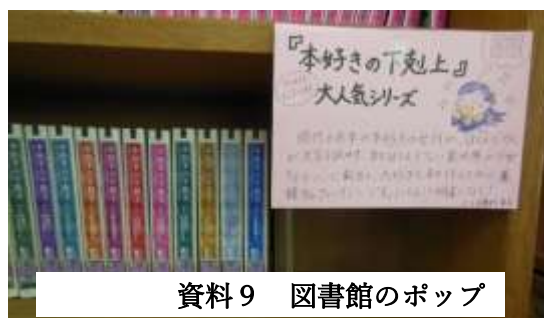
（4）図書館の環境整備と周知

本校の図書館は、生徒が気軽に足を運ぶことができるように、ボードゲームを準備したり、部活動に関連した雑誌を置いたりしている。また、新しく入荷した本は、「新着図書コーナー」として図書館の入り口から分かりやすく、生徒の目につきやすいように掲示するなど、生徒が本を探しやすいように配架している。図書館の環境は、生徒が図書館で快適に過ごしたり、本を探したりできるように、学校司書と協力しながら整備しているが、図書館に来た生徒からは、「たくさん本があって、ど

の本にしようか迷う」という声があった。

そこで、セレクト本だけでなく、図書館にある本の中からも、図書委員おすすめの本についてポップを作成することにした（資料9）。図書委員が書いたポップは、その本が置かれている本棚に貼り、生徒の目に付くようにした。「ポップに書いてあった本が、なんかおもしろそうだから借りてみます」と言って借りていく生徒がおり、ポップの効果が見られた。

また、生徒が読みたい本を入荷できるように、リクエストシートを用意し、いつでも自分の読みたい本をリクエストできる環境を整えた（資料10）。しかし、自分の読みたい本をリクエストできることを知らない生徒もいた。そのため、1学期の始め頃に学校司書が中心となつて行う図書館利用に関するオリエンテーションの際に、図書館にない本が読みたい場合、リクエスト用紙に記入して提出すると、リクエストをした人が入荷後優先的に借りられることを周知した。その結果、2025年度に購入した723冊のうち、51冊が生徒のリクエストによって入荷されたことで、自分の読みたい本を図書館で借りられることを喜んでいる多くの生徒がいた。



資料9 図書館のポップ



資料10 リクエストシート

4 研究の成果と今後の課題

本実践では、図書委員の活動を通して、全校生徒が読書活動や図書館運営に関心をもち、自ら課題を見つけ、読書環境を改善しようとする姿勢や取り組みを大切にしました。読書に関心を示すことができない生徒も中にはいるが、教師が生徒に「読書タイムなのだから読書をしなさい」と押しつけるのではなく、なぜ読書に関心をもてないのか、読書に集中できないのかを丁寧に調査し、学級の読書環境を整えたことで、図書館の環境を整えることにつながった。セレクト本や図書委員が作ったポップなどで、図書館にどのような本があるかを知ることができ、読みたい本をリクエストすれば入荷してもらえることを全校に知ってもらったことで、図書館の来館者数も増え、図書館に活気が生まれた。このように読書環境を生徒のアイデアを基に工夫することで、読書に親しむ生徒を増やすことができたと考える。

今後の課題としては、授業でももっと図書館を活用し、「学習・情報センター」としての役割を果たしていくことが必要だと考える。各教科の教員とも連携し、授業で必要な資料や書籍を整え、各教科の学習活動でも積極的に図書館を利用してもらえるように、入荷する書籍の選定から図書館の利用方法など、教員に対しても周知していく必要があると感じた。今後も学校司書と協力しながら、教員と生徒がともに図書館を有効活用できるように、図書館の環境を整備したり、課題意識をもって委員会活動を行ったりしながら、読書に親しむ姿勢を広げていけるように尽力したい。